

大塚

(農林)51-03

昭和51年度

農林業関係業務実行計画

昭和51年4月

国際協力事業団

農林業計画調査部
農業開発協力部
林業開発協力部

JICA
L000
807
AF
LIBRARY

国際協力事業団

受入 月日	'84. 5. 25	L000
登録No.	07716	80.7
		AF

昭和51年度 農林業関係業務実行計画案

I 調査団派遣計画	1
1. 農業協力事業	2
2. 開発技術協力事業	6
3. 農林業開発調査事業	8
4. 農林業開発協力事業	11
5. 長期調査員派遣計画	14
II プロジェクト運営計画	15
1. 農業協力プロジェクト	15
2. 開発技術協力プロジェクト	25
3. 技術協力センタープロジェクト	28
III 開発技術指導事業計画	30
1. 民間企業等技術指導	30
2. 現地技術者等受入研修	30
IV 専門家の養成確保事業計画	31
1. 専門家の登録	31
2. 専門家の確保	31
3. 専門家の養成	32

(参考) 昭和51年度 農林業関係予算総括表	34
1. 昭和51年度農林業関係事業費	34
2. 昭和50年度農林業関係事業費繰越内訳表	37
3. 昭和51年度管理費内訳表	42

JICA LIBRARY



1027398[5]

I 調査団派遣計画

昭和57年度における調査団派遣は、プロジェクトの発掘、確認、プロジェクトのフォーミュレーション、プロジェクトの指導及び各種の計画作成並びに計画基準等の作成を目的として次のように進める。

但し、農業協力、開発技術協力、開発協力、農林業開発調査の各予算項毎にその実施が確定しているもの、今後、さらに実施の可能性を検討しなければならないもの等、調査案件の熟度に相違があるので、下記A、B、C、Dの優先度に従って実行する。

- 優先度 A. 予算措置が当初から確定しており、早期に実施する予定のもの。(年度前半に実施予定のもの)
- B. 予算措置は当初から確定しているが実施時期は年度後半になるもの。
- C. 予算措置はあるが、調査の実施の可否についてさらに検討を要するもの。(実施しない可能性もある。)
- D. 予算措置はないが、今後の進展をみて C案件の予算を振替えて実施することを考慮するもの。

なお 実施計画予定額は、実施計画作成時の目途として概算したもので、必ずしもこれに拘束されるものではないが、ほぼこの範囲内で実施することを原則とする。

1. 農業協力事業

案件名	要請の形態	調査の概要	前年度迄の経過	実施計画 予算	日数及び回数を	優先度等
事前調査						
① アジア地域畜産開発プロジェクトファイナディング		畜産開発にかかわる技術協力の可能性	新規	十月 6,531 (2,000)	5人 30日	C
② 南西アジア農業開発プロジェクトファイナディング	アフガニスタン公債(S51/1.8オノア号)	アフガニスタン稲作普及センターへの技術協力の可能性他	新規	7,699 4,800	5人 30日	A 実行済み
③ 中南米農業開発予備調査	プロファイ 調査用打診あり	農業開発に必要な技術協力の基本構想の策定	S51/2月 プロファイ実施 ガテマラ, コスタリカ, アルゼンチン, ウルグアイ	7,269 7,699 (6,800)	7269 5人 30日	B
④ インドネシア家畜衛生予備調査	公債(S50.6.28オノ119) 1975 ATA133(バペナス)	家畜衛生センターへの技術協力の基本構想の策定	新規	4,600	5人 25日	A 実行済み
実施調査						
⑤ タイ家畜衛生	S48年正式要請状	家畜衛生センターへの具体的な技術協力計画の策定	新規	10,000	5人 25日 コンサル4人	A 実行済み
⑥ バングラディッシュ園芸	バングラディッシュ, ナーフアドバイザーより	野菜種子生産に必要な技術協力の具体的な計画の策定(かんきつ類の接木改良, そ菜種子生産)	S51/2月単期専門家派遣(個別)により予備的な調査実施	10,000	5人 25日 コンサル4人	A 実行済み
⑦ サウジアラビア乾燥地農業		農業開発に必要な技術協力の具体的な計画の策定	S50.2 プロファイ(サウジ北イエメン, イラク)実施 S51.5 予備調査派遣予定	11,000	5人 25日 コンサル4人	C

案 件 名	要 請 の 形 態	調 査 の 概 要	前 年 度 迄 の 経 過	実施計画 予 定 額	印及び団員数	優先度等
⑤ ボゴール大学	公信(S50.10.24イオ 1830)	教育研究協力への技術協力の具 体的な計画の策定	S51.3 事前調査実施	4600	5人 25日	D
⑦ マレーシア水管理	公信(S50.10.10オ0859)	水管理センターに対する技術協 力の具体的な計画の策定	S51.3月 予備調査実施	10,000	5人 25日 コンサル 4人	D
実施設計調査						
⑩ インドネシア養蚕開発		センターの設計及びかんがい に必要な水量の検討	S49.3月、10月に予備調査 S50年3月長期調査員3名 を派遣、50年11月実施計 画調査実施	30,000		A 実行済み
⑪ タイかんがい農業開発	公信(S50.7.14オ1618号) 公信(S51.2 未着)		S51.5 予備調査実施	30,000		B 実行済み
巡回指導						
⑫ バングラ農業普及		巡回技術指導		(2,894) 3,600	4人 25日	B 実行済み
⑬ インド農研 パキスタン		"		4,888 (3,700)	"	B 実行済み
⑭ ネパール農業開発		"		3,700	"	B 実行済み
⑮ タイ養蚕開発		"		3,200	"	A 実行済み
⑯ ブラジル リベイラ		"		5,000	"	B
⑰ 渡民組織分野		"		3,500	"	A 実行済み
⑱ 研究協力分野		"		3,600	"	A
計画打合せ						
⑲ インドネシア養蚕		年次計画作成		2,100	3人 15日	A

案 件 名	要 請 の 形 態	調 査 の 概 要	前 年 度 迄 の 経 過	実施計画 予定額	日数及び団員数	優先度等
②① インドネシア南スラウェシ		年次計画作成		2,100	3人 15日	B
②② 韓国農研		"		1,100	"	B
②③ フィリピン カガヤン		"		1,600 (1,600)	"	A
②④ タイ家畜衛生		R/D取りまとめ		1,500	"	E
②⑤ イラン シスタン		年次計画作成		2,100	"	B
②⑥ タンザニア キリマンジャロ		"		2,900	"	A
②⑦ ブラジル農研		"		4,233 (3,200)	"	A 実行済み
エバリュエーション						
②⑧ ラオス タゴン		協力効果の把握	50年度フォローアップに移行 52年度終了予定	8,300	3人 35日 コンサル 4ヶ月	C *
基 礎 調 査						
②⑨ 計画基準		普及 { インドネシア, バングラデシュ, { フィリピン, ラオス	49年農業水利, 50年農業 機械について実施	20,000		B 実行済み
②⑩ 開発基礎		乾燥地農業 (アフリカ)	50年 中近東	12,000		B 実行済み
②⑪ 開発実態		インド バングラデシュ カナダ	49年, ドイツ, デンマーク, タイ, インドネシアで実施 50年, アメリカ, ペルー, ポリ ビア, パラグアイで実施	2,700		B 実行済み
50年度からの繰越予定案件						
②⑫ インドネシア南スラウェシ 実施計画調査		R/Dの取りまとめ	50年12月予備調査	8,582	5人 14日	A

案 件 名	要 請 の 形 態	調 査 の 概 要	前 年 度 迄 の 経 過	実施計画 予 定 額	日数及び回員数	優先度等
⑳ インドネシア南スラウエシ 実施設計調査		計画策定に必要な調査設計を行 う。	50年12月予備調査 51年5月実施計画調査	23000	8人 40日 コンサル4ヶ月人	A
㉑ インド農研計画打合せ		条約に基づき協力の年次計画の 策定		1812	3人 10日	B
㉒ サウジアラビア乾燥地農業 予備調査		協力基本方針の検討	50年2月、プロジェクトフ ァインディング	4962	5人 25日	C
㉓ タイかんがい農業開発予備 調査		チャオピア河、メクロン河流域 等のかんがいプロジェクトに対 する協力基本方針の検討		4585	5人 25日	A

2. 開発技術協力事業

案件名	要請の形態	調査の概要	前年度迄の経過	実施計画 予定額	日数及び円換算	優先度等
事前調査 ① 南太平洋水産物		浅海養殖適地の選定及び技術協力の基本構想の策定	新規	5,800	5人 25日	B パナマ水産研究所 12月5日～30日
② 東南アジア森林資源	マレーシアより、非公式打診	木材加工分野及び天然林施策計画の策定に必要な技術協力の基本構想の策定	新規	4,142 (4,700)	5人 25日	B
③ 東南アジア畑作物			新規	(5,000) (5,000) (5,000)	5人 25日	C
実施調査 ④ メキシコ畜産開発	公信 (S 51 / R005177)	酪農及び畜産加工部門に対する具体的な技術協力の計画を検討する。	新規	9,600	5人 25日 コンサル 3ヶ月	B
⑤ フィリピン飼料作物	公信 (S 51 /	畑作物開発(とうもろこし等)に対する具体的な技術協カプロジェクトの計画を策定する。	S 51 前期事前調査実施予定	8,300	5人 25日 コンサル 3ヶ月	B
実施設計調査 ⑥ タイとうもろこし開発		普及、機械化のセンター及びほ場の設計。	S 50年3月事前調査/2月実施調査	20,000		A
⑦ マダガスカル畜産開発		前年度実施の報告書及び口内作業		5,000		A
巡回指導 ⑧ インドネシア ランポン				3,700	4人 25日	B

案件名	要請の形態	調査の概要	前年度迄の経過	実施計画 予定額	日数及び団員数	優先度等
② タイ エビ				3,400	4人 25日	B
② マダガスカル畜産			S.50年9月実施計画調査実施 S.51年3月実施設計調査実施	5,200	4人 25日	C
計画打合せ						
④ フィリピン パンタバンガン		R/O 取りまとめ	S.50年12月実施計画調査実施	1,800	3人 15日	A
50年度からの繰越予定案件						
② フィリピン 飼料作物	公信(S.51.1)	畑作物開墾の可能性を把握する ための現地調査及びフィリピン 政府との協議	新規	4,225	5人 30日	B
③ マダガスカル計画打合せ			S.52.11 実施計画調査実施 S.52.3 実施設計実施	4,814	3人 13日	B

3 農林業開発調査事業

案件名	要請の形態	調査の概要	前年度までの経過	実施計画 予定額	日数及び員数	優先度等
(事前調査)				F円		
① インドネシア、リアムカナンかんがい計画	公信(各国へ関心表明を依頼)	日本の無償で設置されたリアムカナンダム受益地のかんがい計画の現地調査及びイ政府との協議	49年度に実施すること以外務省が通知していたが、アジア銀が関心表明したため、実施しなかった。現在、アジア銀も未実施で保留されている。新規	4,500	4人 30日	C
② コロンビア森林造成計画	公信(50.4 第132号)	カウカ溪谷ヴァリエ州の植林計画の計画策定方針の検討	新規	5,500	4人 30日	A O.K
③ 北イエーメン農業開発計画	公信(50.8 第539号)	かんがいによる農業開発計画の事前調査	新規	6,000	5人 30日	B O.K
(実施調査)						
④ ナイジェリア農業開発	公信(50.10 第436号)	緊急食糧増産対策の一環として実施される稲作開発計画のF/S	51.5 事前調査実施	42,000 30,000	8人 60日 うち、コンクリ 6人	B O.K

案 件 名	要 請 の 形 態	調 査 の 概 要	前 年 度 ま で の 経 過	実 施 計 画 予 定 額	日 数 及 び 員 数	優 先 度 算
⑤ インドネシア、ビダス かんがい計画	公信(50.7)	円借款に必要なフィージビ リティ調査	46～47年度にブランタ ス河流域水資源開発計画 を実施した際に踏査を行 い、開発の可能性は大と された。	45,000 千円	8人 60日 うち、コンサル6人	D
⑥ インドネシア、ビラ ボヤ河農業開発計画		円借款に必要なフィージビ リティ調査	48年度に実施した南スラ ウェシ中部水資源開発計 画予備調査により、優先 度第一位とされた。	45,000	8人 60日 うち、コンサル6人	D
⑦ フリピン、マダバト、 アグサン河流域開発計画	公信(50.8 第1348号)	円借款に必要なフィージビ リティ調査	—			社会開発部中心 で実施の可能性有
⑧ フリピン、ジュラウル 多目的開発計画	公信(50.8 第1348号)	円借款に必要なフィージビ リティ調査	—			”
⑨ フィージ林業開発計画	公信(50.9 第996号)	植林及び施業計画の策定		48,000	8人 60日 うち、コンサル6人	B Pending
⑩ パルー漁業基地建 設計画	公信(50.5 第261号)	ナブロ地区漁業基地建設 のための F/S	49年事前調査実施	48,000	8人 60日 うち、コンサル6人	B O.K.

案 件 名	要 請 の 形 態	調 査 の 概 要	前 年 度 までの 経 過	実 施 計 画 予 定 額	日 数 及 び 員 数	優 先 度 等
⑫ 韓国干拓農地開発計画 (林業資源調査)		円借かんに必要な F/S		未 定		D
⑬ インドネシア林業資源調査 (水産資源調査)		資源量の把握、利用可能性の検討。ボルネオ島、カリマンタン地区	新 規 一	50,000	未 定	B <i>Pending</i>
⑭ スリランカ水産資源調査	公信(50.8 第17号)	陸上事前調査	新 規	4,500	4人 30日	B O.K.
⑮ フィリピン	公信(49.5 第295号)	海上調査	49年度、陸上調査実施	50,000 100,000		B 海洋水産資源部 O.K. 発注要請予定
⑯ メキシコ		陸上、沿岸調査	新 規	220,000		B O.K.
⑳ パプアニューギニア		陸上調査	新 規	44,000 30,000		B O.K.

4 農林業開発協力事業

案件名	要請の形態	調査の概要	前年度までの経過	実施計画 予算額 円	日数及び員数	優先度等
(基礎一次調査)						
① インドネシア、スマタンデ ルタ農業開発	アチエ特別区よりス マトラ木材KKに協 力打診	現地踏査と開発協力事業 実施の可能性の検討	新規	4,900	5人 30日	A O.K.
② オーストラリア西部地 域飼料作物開発	養首相米日の際、全 国等に要請 (45.1)	現地踏査と開発協力事業 実施の可能性の検討	新規	4,800	4人 30日	C →
③ 英領ソロモン諸島 森林造成	ソロモン首相米日の 際、林野庁に要請 (50.1)	〃	新規	5,300	4人 30日	B O.K.
(基礎二次調査)						
④ インドネシア、中部スラ ワシ林業開発	州政府より農林省調 査団に要請あり。	中部スラワシ、トキマレ島に おける事業の基本計画の 策定	50年度末に一次調査を 実施	25,000	6人 35日 うち、コンサル2人	B O.K.
⑤ 北ベトナム、とうもろ こし開発	北ベトナム農業合作 社連合会から全農に 対し45年8月以来、 打診があり、意見交換 が行なわれている	北ベトナム 中部とうもろ こし開発計画のための基 本計画の策定	51年度当初に一次調査 (50年度予算)を行う予定	20,000	6人 35日 うち、コンサル2人	B O.K.

案件名	要請の形態	調査の概要	前年度までの経過	実施計画 予定額	日数及び員数	優先度等
④ ブラジル ベレン地域 林業開発 (開発計画調査)	ブラジル政府より永 大産業に要請あり → 3件 { エイブル コンピュータ システム	ベレン地域林業開発基本 計画の策定	50年度に一次調査を 実施	4円 17,000	1人 35日 25 コンサル 2人	B O.K.
⑤ ブラジル 農業開発		事業の実施計画書の策定	49年度に一次調査を 実施 50年度に協議ミッションを 派遣	45,000 39,500	検討中	C O.K.
⑥ インドネシア 南スマトラ 森林造成 (計画打合せ)	イ政府林野庁幹部来 日の際要請あり (42名)		50年度に一次、二次調査 実施	27,000		B O.K.
⑦ ブラジル 農業開発		ブラジル セラード農業開 発実施のための計画打合せ	④に同じ	3,300	3人 15日	B O.O.K.
⑧ パプア ニューギニア マダン林業開発		林業開発事業実施のため の計画打合せ	④に同じ	2,700	3人 15日	B O.K.
⑨ インドネシア 南スマトラ 森林造成		森林造成事業実施のため の計画打合せ	④に同じ	2,200	3人 15日	C O.K.
(投融資審査等調査)	(投融資業務の進捗に合わせて 7件の審査等調査の実施を予定する。)			12,500	1件当たり 3人 35日	決裁増を大に殺し O.K.を取付

案件名	要請の形態	調査の概要	前年度までの経過	実施計画 予定額	日数及び員数	優先度等
<50年度よりの繰越案件> (基礎一次調査) ⑬ 北ベトナム、とうもろこし開発 (開発計画調査) ⑭ ブラジル・セラード開発 ⑮ タイ、とうもろこし開発 ⑯ パプアニューギニア マダニ森林造成 ⑰ フィリピンマダバガン 森林造成 ⑱ 投融資審査等調査 (2件)	⑤に同じ	現在踏査と開発協力事業 実施の可能性の検討 事業の実施計画の策定 事業の実施計画の作成 “ “	49年度：二次調査を実施 50年度：計画打合せ、第1 回開発計画調査 実施済み。 49年度に二次調査を実施 50年度に二次調査を実施 “	4,370 25,000 23,892 27,822 20,350 3,847	5人 25日 6人 60日 コンサル3人 9人 45日 コンサル3人 8人 40日 コンサル3人 8人 40日 コンサル3人	B A B

5. 長期調査員派遣計画

昭和51年度の長期調査員の派遣は、調査の進捗に合わせて、プロジェクトのフォーミュレーションを効率的に行うことを目的として次のように進める。

長期調査員派遣計画

	派遣対象プロジェクト	員 数	期 向	備 考
農業協力事業	バンラデツシュ果樹・野菜開発	2	未定	長期調査員の派遣は調査の進捗に合わせて行う必要があるため、弾力的に考える。(派遣対象プロジェクトの変更もあり得る) なお 予算額は派遣諸費内での弾力的運用可。
	インドネシア家畜衛生	2	、	
	タイ、かんがい農業開発	2	、	
開発技術協力事業	タイとうもろこし開発	2	、	
	フィリピン森林造成	2	、	
開発協力費	ブラジル 農業開発	2	、	

II プロジェクト運営計画

1. 農業協カプロジェクト

国名	プロジェクト名	プロジェクトの概要			昭和51年度運営計画			
		協力内容	協力期間	専門家派遣数	調査団派遣	専門家派遣	機材供与	研修員受入等
インドネシア	農業普及	<p>わが国の無償協力で設立が予定されている中央農業普及研究所(CERDI)において次の協力を行う</p> <p>① 農業普及技術の指導助言 ② 稲作、畑作栽培技術の指導助言 ③ 農業機械技術の指導助言</p>	<p>R/Dによる協カ(2年間) 50年3月/4日 ? 52年3月/3日 (この後、協定協カ(57年)と予定]</p> <p>(注) バングラディッシュ農業機械化に対するR/D協カ(48.4.1~50.3.31)がこの前に行なわれている。</p>	<p>51年4月/1日 現在 アドバイザー/名 田長 / 普及 / 農業機械 / 栽培 / 計 5名</p>	<p>① 巡回指導調査 51年11月上旬 4名×2/日 予算: 3,600千円</p>	<p>(長期) 農機具(新規)10月/名 栽培水利()10月/ 園芸()10月/ 土壌肥料()10月/ 業務調整()10月/ 農業機械化(交際)(10月)/ アドバイザー() (222)/</p> <p>(短期) 圃場整備 3名</p>	<p>50年度 繰越 2,500^{千円} 51年度 92,500^{千円}</p>	<p>(集団) 稲作普及 / 名 農機整備 /</p> <p>(個別) 農業行政 2名 年度未予算 との関連上 2名追加を検討</p>
インドネシア	西部ジャワ食糧増産	<p>西部ジャワの食糧増産のため次の協カを行った。</p> <p>① 地域農民の所得向上を図るための、夕ニマムール計画(1086名)</p>	<p>協定協カ(6年間) 43年5月26日 ? 47年5月25日</p>	<p>(51年4月/4日現在) 稲作栽培 / 農業機械 / 計 2</p>	なし	<p>(帰国)栽培(リーダー) (5月28日) / 名 () 農業機械 (5月28日) / 計 2名</p>	<p>50年度 翌債 5744^{千円} 明許 685^{千円} 51年度 (予算1700千円) (但し 贈送1511)</p>	<p>(集団) 稲作普及 / 名 稲作機械化 / 名</p> <p>(個別) なし</p>

画名	プロジェクト名	プロジェクトの概要			昭和51年度運営計画			
		協力内容	協力期間	専門家派遣数	調査団派遣	専門家派遣	機材供与	研修員受入等
小沢	農業研究	2 農業の近代化を図る普及農場設置計画	アフターケマー (2年間)					
		3 技術者の訓練(農業機械化、種子生産検査)	49年5月26日 51年5月25日					
		現在、上記業務のアフターケマーを実施中である。						
		ボゴール中央農業研究所において作物保護に関する次の研究に協力する。	協定協力 (8年間)	51年4月/現在 団長 1名	① 巡回指導(研究協力分野、韓国農研とセントで実施)	(長期) 植物ウイルス(新規)10月/名	50年度分 翌積 51,890 ^{千円}	(個別) 植物病理 1名
		① 主要作物主要病害虫の生態と防除に関する研究	45年10月23日	植物病理 1 植物生理 2	51年10月	(短期) Toxicology(新規)10月/名	51年度分 51,000 ^{千円}	生理 1 害虫 1
		② 主要作物主要病害虫及びウイルス病の媒介昆虫の発生子索に関する研究	52年10月22日 (50年10月23日より3年間延長)	植物ウイルス 1 計 5	5月×10日 予算 3,600 千円	機材提供 1月/名		作物 1 計 4
		③ 食用作物の生理障害及び主要病害虫に関する植物生理学的研究				(巡回) 加藤忠司(6月24日)(短期) 塚野修 () ()		(集団) なし
	ランポン農業同発協力	本プロジェクトは昭和47年11月12締結された協定により協力を実施しており、3つの小計画により成立している	協定協力 (5年間)	51年4月/現在 団長 1名	① 巡回指導(同発)(合同エバリュエーション)	(長期) 病虫害管理(交替)5月/名	50年繰越分 農協(翌積) 72,126 ^{千円} (明許) 30,920	(集団コース) 稲作普及 1 野菜生産 1
		(I) 農業普及センター、技術指導、助言、圃場試験演示、訓練、種苗配布等	47年11月14日	土壤肥料 1 低地栽培 1 農業経営 1 農業普及 1 農業機械 1	4人×25日 予算: 3,700 千円	かんがい () 5月/名 畑作栽培 () 6月/名 農業機械 () 12月/名 計 4名	同発(翌積) 52,396 (明許) 10,614	かんがい排水 1 (個別) ナシ
			52年11月13日		② 巡回指導(農民組織分野: フィリピン/カギヤ)		51年度分 農協 112,000 ^{千円} 同発 68,000	

国名	プロジェクト名	プロジェクトの概要			昭和51年度運営計画				
		協力内容	協力期間	専門家派遣数	調査団派遣	専門家派遣	機材供与	研修員受入等	
インドネシア	養蚕開発	(II) 低地農業開発: 100 ha のラージ・モファーム 1, 約 5 ha のスモール・モファーム 40 を設置し、稲作農業の普及の基礎とする。	R/D 協力 (1年6ヶ月) 51年3月30日)	稲作普及 /	とセットで実施) 51年10月 4人×25日 予算: 2,500千円	(短期)	網室据付 40日 3名 (帰国) かんがい 51年12月7日2名 (公共事業所局) 農業機械 51年12月6日1名	51年度 52,500千円	(個別) 蚕種製造 2名 計 2名 (県西) なし
		(III) 高地農業開発: 畑作農業地域 5,000 ha に試験区を設置して改良農業技術の導入・演示等普及活動を展開する。		かんがい 2 業務調整 / 計 11名		① 実施設計 51年6月 8人×40日 予算: 20,000千円 ② 計画打合せ 52年9月 5人×15日 予算: 2,000千円			
南スラウェシ	地域開発計画	インドネシア国の養蚕業の振興に資するため次の協力を行う。 ① 養蚕センター及び同サブセンターの設立及び指導 ② 標準的養蚕技術の確立 ③ インドネシア技術者及び指導者の訓練 ④ 蚕種並みに樟梗の製造配布 ⑤ 養蚕新技術の展示 センターの位置: 南スラウェシ ビリビリ サブセンターの位置 ソンペン市	R/D 協力 (以後、協定により5年間協力の予定)	51年4月1日 現在 長期調査員1名 計 1名	① 実施設計 52年1月	(長期) 農業経済(新規) 7月1名	50年度(繰越) 10,000千円		

国 名	プロジェクト名	プロジェクトの概要			昭和51年度運営計画			
		協力内容	協力期間	専門家派遣数	調査員派遣	専門家派遣	機材供与	研修員受入等
インドネシア		① 南スラウエシ州の地域農業に関する調査及び分析 ② 南スラウエシ州地域農業計画の検討及び勧告 ③ 上記計画に即した部門別計画の策定 ④ 特定県における農業開発事業の実施計画の策定 ⑤ ①～④を通しての計画作成担当者への訓練	(2.5年間を予定)		8人×40日(353人日) 予算23,000千円 ② 計画打合せ 51年9月 3人×15日 予算2,100千円	地域計画(新規)7月/名 営農計画()7月/1 調整員()7月/1 アドバイザー()7月/1 (短期) 2名予定	51年度26,000千円	
インドネシア	農業研究	米の安定増産及び果樹、園芸生産の振興に資するため、次の協力を行う予定である。 ① 稲作主要病害虫の発生予測法の確立に関する研究 ② 果樹園芸に関する研究 協力試験場 ① 農業技術研究所(ニューデラー) ② 全インド稲作改良プロジェクト(ハイデラバード) ③ 園芸試験場(バンガロール) ④ 研究兼展示センター(シムラ) (現在イ側の協定署名手続中)	協定協力(51年の予定)	51年4月1日現在 なし	① 計画打合せ(50年度繰越) 51年6月 3人×15日 予算1,812千円 ② 巡回指導 52年3月 4人×25日 予算3,700千円	(長期) <病虫害部門> チームリーダー(新規)7月/名 シルス病()7月/1 昆虫()7月/2 <園芸部門> チームリーダー(新規)7月/名 野菜育種()7月/1 落葉果樹()7月/2 (短期) 病理 52年3月/名 園芸 > /	50年度繰越分4,000千円 51年度2,650千円	(個別) 病虫害 1名 園芸 / (集団) なし

国名	プロジェクト名	プロジェクトの概要			昭和51年度運営計画			
		協力内容	協力期間	専門家派遣数	調査団派遣	専門家派遣	機材供与	研修員受入等
韓国	農業研究	<p>韓国の食糧増産及び農民所得の向上を図るため、水稲、普通作物及び野菜の研究に因り次の研究を行う。</p> <p>① 作物安全多収性品種に関する研究</p> <p>② 水稲低位生産地の土壌肥料に関する研究</p> <p>③ 作物の蒸発、水分生理生態に関する研究</p> <p>④ 生産基盤造成のための土壌肥料の総合研究</p> <p>⑤ 除草剤に関する研究</p> <p>⑥ 野菜の生産増大及び品質向上に関する研究</p> <p>⑦ 作物保護に関する基礎及び応用研究</p>	<p>協定協力 (5年間) 49年6月7日 ? 54年6月6日</p>	<p>51.4.1現在 団長 1名 計 1名</p>	<p>1. 計画打合せ 52年2月 5人×15日 予算 1,100千円</p> <p>2. 巡回指導(研究協力分野)イホホン農研センター 51年10月 5人×10日 予算 3,600千円</p>	<p>1. 長期 リターン延長 7月30日</p> <p>2. 短期 3ヶ月 計 9名 (内訳) 水稲育種 '76.6.4~3ヶ月 麦類 : '76.2.11~ 特異酸性土壌 未定 水稲水管理 '76.8.20~ 雨どみ地土壌 '76.8.3~ 雑草防除 '76.8.20~ 施設園芸 未定 水稲病理 '76.7.6~ ウンカ '76.6.4~</p>	<p>50年度 型債 53,700^{千円} 明許 6,257^{千円} 51年度 57,500^{千円}</p>	<p>(個別) 10名 高級3名</p>
タイ	タゴン農業開発	<p>ヴェンチマン平野タゴン地区農業開発のため、アジア開発銀行と協調し、次の協力をを行う。</p> <p>わが国が調査設計を行い、主にアジア銀が融資しているタゴン農業開発地区内(800ha)におけるパイロット農場(100ha)の設置</p>	<p>協定協力 (7年間) 45年4月24日 ? 52年4月23日</p>	<p>51年4月18日現在 リーダー 1 かんがい 1 農業機械 1 農業技術 1 調査員 1 (ポンプ修理 1)</p>	<p>① エバリュエーション調査 52年1月 3人×35日 コンサルタンツ 4ヶ月人 予算 8320千円</p>	<p>新規 栽培(短期) 2名 他にポンプ修理に1名 追加を検討中。</p>	<p>50年度 1次型債 4,500^{千円} 明許 2,000 2次明許 8,500 51年度 25,500</p>	<p>(果樹) かんがい排水 / 農機整備 1 計 2名 (個別) 農業開発 Mr. Ootn(2manh's)</p>

画名	プロジェクト名	プロジェクトの概要			昭和51年度運営計画			
		協力内容	協力期間	専門家派遣数	調査員派遣	専門家派遣	機材供与	研修費受入等
対入		① 土地基盤整備 ② 農業技術の改良 ③ 地区内農民の道農指導(入植訓練を含む) ④ 資機材の供与		(短期) 計 6名 (うち短期1名)		(帰国) ポンプ修理4月27日 1名		
対出	ジマナカプール 農業開発	ジマナカプール地域農業開発に対するR/Dによる予備協力の後、協定によるR/Dによる協力を進めている。 ① ハルデナート普及農場(40ha)における改良農業技術の導入・展示及び普及 ② プロジェクトセンターの設置運営 ③ 深井アかんかい地区における集約稲作の普及指導 ④ ラブライ模範農場(8ha)における改良農業技術の導入・展示 ⑤ 山岡部地区における展示農場の設置運営と普及指導	R/Dによる予備協力(3年間) 46年11月26日 49年11月6日 協定協力(5年間) 49年11月7日 54年11月6日	51年4月1日現在 アドバイザー1名 団長 1 農業普及 2 農業技術 2 農業機械 1 かんがい 1 農場経営 1 建築設計 1 業務調整 1 計 11名	① 巡回指導調査 52年2月 4人x2日 予算: 3,700千円	(長期) 園芸(新規)5月 1名 かんがい(新規)5月/ アドバイザー(交替)11月/ かんがい(〃)9月/ 調査員(〃)10月/ 建築設計(帰国)11月/ (短期) 深井戸堰さく(新規)10月 1名 小規模水力(新規)未定/ 薬草栽培(〃)〃/ 地下水(新規)5月	50年度 翌償 85,306千円 明許 26,694 51年度 119,000千円	(集田) 稲作普及/ かんがい排水/ 野菜普及/ 農機整備/ (個別) なし?
対入	稲作開発	(1) ミンドロ島ナウハン地区(1,200ha)及びレイテ島サンミゲールアランラン地区(1,100ha)を対象にかんがい排水施設の建設。	協定協力(5年間) 44年6月16日	ミンドロ 農業普及1名 稲作栽培1	なし	[現在赴任中の5名、6月15日で帰国]	50年度 翌償 77,466千円 明許 2,441	(集田) ミンドロ 稲作普及1名

回 名	プロジェクト名	プロジェクトの概要			昭和51年度運営計画			
		協力内容	協力期間	専門家派遣数	調査員派遣	専門家派遣	機材供与	研修員受入等
ラン		近代的農業技術の導入、乾燥貯蔵米のためのライスセンター建設を含む稲作モデル圃地の建設計画の調査設計 (2) 両地区に設置されたパイロット農場(100ha)において、次の協力を行った。 ① 土地基盤整備 ② 稲作技術の改善及び普及 ③ 技術者等の訓練 現在、上記業務のアフターケアを実施中である。	47年6月15日 アフター (2年間) 49年6月16日 51年6月15日	農業機械 / 計 3 レイテ 農業普及 / 1名 農業機械 / 計 2 合計 5名			51年度 予算 1700千円 あると贈送しない予定	レイテ 稲作機械化1名 計 2名 (個別) なし
	カガヤン農業開発	カガヤン地域の農業開発に資するためパイロットセンター及び拠点普及地域(LEA)を設置し、次の協力を行う ① 実用研究及び新技術の開発 ② 高収量品種の選定試験 ③ 農業機械、用水管理等のデモンストラーション センターの位置: カガヤン州イググ センターの規模: 10ha(建物2ha試験圃8ha) 拠点普及地区 50ha " 50ha	R/D 協力 (2年間) 51年2月27日 53年2月26日 (以後協定により5年間協力の予定)	51年4月1日 現在 なし 51年10月 4月×25日 予算: 3,500千円	① 計画打合せ 51年7月 3人×15日 予算 1600千円 ② 巡回指導(農民組織分野、インドネシアランポンとセットで実施)	アドバイザー(新規)5月1名 圃長 () 8月 / 栽培 () 7月 / かんがい () 6月 / 普及 () 8月 / 機械 () 8月 / 調整 () 8月 / 計 7名	50年度 繰越 10,000千円 51年度 66,000千円	(個別) アドバイザー ンスタディ 2名 5月 (集団) なし

画名	プロジェクト名	プロジェクトの概要			昭和51年度運営計画			
		協力内容	協力期間	専門家派遣数	調査団派遣	専門家派遣	機材供与	研修費受入等
協力	デフア村落開発	セイロン中央部乾燥地帯にあるデフア村落上流部(水田700エーカー、畑100エーカー)の村落開発計画に対して次の協力を行う。 ① 土地基盤整備 ② 農業技術の改善及び普及 ③ 農民組織の育成及び生活改善等	協定協力 (5年間) 45年10月19日 ? 50年10月18日 (協定期限終了後51年9月30日まで要請によりCP車1台を派遣(残留)シフトアップ中)	51年4月/日現在 1名	なし	(帰国)1名(51年9月30日)	50年度繰越 明許 2500千円 51年度 なし	なし
タイ	養蚕開発	東北タイの養蚕開発のために次の協力を行う。 ① コラート養蚕研究訓練センター設置(近代的養蚕技術の確立、技術者の訓練) ② 4支場の設置(改良蚕種桑苗の製造配布) ③ 特定果樹に対する近代的養蚕技術の普及 ④ 製糸業の開発に関する技術的指導	R/D協力 (9年間) 44年3月7日 ? 47年3月6日 延長 47年3月7日 50年3月6日 再延長 50年3月7日 ? 53年3月6日	51年4月/日現在 リーダー 1 蚕種改良 1 蚕種製造 1 製糸 1 蚕病及び桑病 1 桑栽培 1 稚蚕飼育 1 計 7名	① 巡回指導 51年10月 4人x25日 予算:3,200千円	(長期) 稚蚕飼育(交替)7月/名 桑栽培()9月/名 (短期) 蚕種冷蔵施設 5月下旬/名 製糸 1/名	50年度 設備 36,200千円 明許 12,800 51年度 52,700千円	(個別) 製糸 2名 蚕種改良 1 蚕飼育 1 蚕種製造 1 計 5名 (集団) なし

国名	プロジェクト名	プロジェクトの概要			昭和51年度運営計画			
		協力内容	協力期間	専門家派遣数	調査団派遣	専門家派遣	残材供与	研修員受入等
インド	シスタン農業開発	シスタン地域農業開発のため、サハフ農業研究センターにおいて次の協力をを行う。 ① サハフ農業研究センター設立のための指導及び助言 ② 研究に関する情報の収集及び解析 ③ 農業技術の実験及び研究	R/Dによる協力(2年間予定) その後、協定により、5年間協力を行う予定 51.3. R/Dに署名 51.3. R/Dに署名の予定	51.4. / 現在 ナシ	① 計画打合せ 51年7月 3人×15日 予算: 2,700千円	(長期) 団長(新規)9月1名 アドバイザー()9 / 業務調整()9 / 計 3	50年度 10,000千円 51年度 73,100千円	(個別) 高級 1 (集団) 作物栽培 / かんがい / 排水 農業機械 / 計 3
タンザニア	キリマンジャロ農業開発	キリマンジャロ州農業生産を増大するために次の協力をを行う。 ① リマムンク農業研究所を中心とする試験研究協力 ② キリマンジャロ州の水資源開発調査協力 ③ キリマンジャロ州における農業調査協力	R/Dによる協力(2年間) 49年12月2日 ? 51年12月1日 (その後、協定協力(5年間)を予定)	51.4. / 現在 リ-グ- / 栽培 2 かんがい / 水資源 / 農業経済 / 調整 / 計 7名	① 計画打合せ 4人×15日 51年8月 予算: 2,900千円	(短期) 農業土木(新規)10月2名 土壤肥料()10月2名 畑作栽培()12月2名 ホ-リンク試験()10月1名 (長期) 水資源(交替延長)1名	50年度 52,648千円 明許 15,952千円 51年度 70,250千円	(集団) 稲作普及 / 稲作機械化 / かんがい排水 / (個別) なし
ブラジル	リバイラ農業開発	リバイラ河流域の農業生産の増大に資するために次の協力をを行う。 ① リバイラ河流域の開田に伴う稲作栽培技術の普及	R/D及び補正取極による協力 50年3月11日	51.4. / 現在 リ-グ- / 1名 団長 / 農林土木 2 調整員 /	① 巡回指導 51年10月 5名×17日 予算 5,000千円	(長期) 栽培(新規)5月1名 農業経済(新規)8月1名 計 2名	51年度 12,900千円	(個別) 高級 1 準高級 2

国名	プロジェクト名	プロジェクトの概要			昭和51年度運営計画			
		協力内容	協力期間	専門家派遣数	調査回派遣	専門家派遣	資材供与	研修員受入等
ブラジル	農業研究	<p>② 農業開発センターにおける研究協力</p> <p>セラード地域における農業開発の促進に資するため、次の共同研究に協力する。</p> <p>① 植物病理、昆虫に関する研究 ② 作物栽培、土壌肥料、作物育種に関する研究 ③ 農業機械に関する研究 ④ 農業経営、経済に関する研究</p> <p>協力する研究所</p> <p>1) ブラジル農牧業試験研究公社 2) セラード農牧業試験研究センター 3) ミナスジェラス州農牧業試験研究公社 4) ヲペラーバ農事試験場 5) バトステミナス農事試験場 6) アルトパラナイバ農事試験場</p>	<p>55年3月10日</p> <p>(現在補足取極め手続中)</p> <p>技術協力基本協定の補足取極めに基づき協力</p> <p>(5年向)</p> <p>5/2. 5/0</p> <p>署名、現在補足取極め手続中</p>	<p>計 5名</p> <p>5/4. / 現在 1名</p>	<p>① 計画打合せ</p> <p>5/年1月</p> <p>5名×30日間</p> <p>予算: 3,200千円</p>	<p>長期</p> <p>団長(新規) 8月1名</p> <p>病理() 1</p> <p>生理() 1</p> <p>土壌() 1</p> <p>害虫() 1</p> <p>速給員() 1</p> <p>短期(農業気象、農業機械) 2</p> <p>(他にTARCベースの専門家派遣あり)</p>	<p>5/年度(新規)</p> <p>44,000千円</p>	<p>(集団)</p> <p>かんがい隊 /</p> <p>農業普及 /</p> <p>(個別)</p> <p>病理 1名</p> <p>昆虫 1名</p> <p>土壌 1名</p> <p>計 3名</p> <p>(集団)</p> <p>1名</p>

2. 開墾技術協力プロジェクト

国名	プロジェクト名	プロジェクトの概要			昭和51年度運営計画			
		協力内容	協力期間	専門家派遣数	調査田派遣	専門家派遣	機材供与	研修費等
フ イ リ ピ ン	パンタバンガン 森林造成	<p>パンタバンガン地域における森林造成事業の円滑な実施に資するため、技術協力センターを設立し、パイロット・フォレストの造成を通じて次の協力を行う。</p> <p>① 森林造成個別技術の開発 ② 森林の総合的機能を効果的に森林造成技術の体系化 ③ 上記に必要な技術訓練</p> <p>センターの位置：ルソン島ヌバエシバ州パンタバンガン地域</p> <p>パイロットフォレストの規模： 試験林 1,300 ha 試験林 6,800 ha 計 8,100 ha</p>	<p>7年</p> <p>{ 51.10 } { 5 } { 58.10 }</p>	<p>田長 1名 造林 1名 立地 1名 森林施業 1名 林水育種 1名 計 5名</p>	<p>① 計画打合せ 51年5月下旬~6月上旬 4人 × 10日 経費 1,710千円</p>	<p>田長(新規) 10月1名 造林(新規) 10月1名 (長期調査員 5月 2名)</p>	<p>51年度分 17,000千円</p>	<p>個別研修 高級 1名 一般 1名 集団研修 森林造成 1名 計 3名</p>
タ イ	一次産品開発 (大豆)	<p>大豆の優良品種の育成のために次の協力を行う。</p> <p>① 新品種の育成 ② 問題点の指摘整理</p>	<p>43年4月の 一次産品開発 調査田の報告 に基づき開始 43年4月23日 { 51年4月末</p>	<p>51.4 / 現在 首種 1名 計 1名</p>	なし	<p>帰国育種 4月末日 1名</p>	<p>50年度 明許 10,000千円 51年度 2,500千円 (但し、A4フォ ームの提出があ った場合)</p>	<p>(個別) 大豆育種 1名 栽培 1 増殖 1 計 3名 (集団) なし</p>

国名	プロジェクト名	プロジェクトの概要			昭和51年度運営計画			
		協力内容	協力期間	専門家派遣数	調査員派遣	専門家派遣	機材供与	研修費受入等
タイ	エビ養殖開発	<p>タイ国のエビ養殖業の振興を図るため、次の協力をを行う。</p> <p>① 在来養殖方法の改良を目的としたパイロットファームの設立</p> <p>② パイロットファームで使用する種苗の生産に関する応用研究</p> <p>③ タイ国エビ養殖開発計画に関する技術的指導助言</p>	<p>3年間(5/6)</p> <p>48年4月1日</p> <p>51年3月31日</p>	<p>(51.4/現在)</p> <p>団長 1名</p> <p>養殖 3名</p>	<p>巡回指導 51年9月</p> <p>6ヶ月</p> <p>(5400千円)</p>	<p>継続 12ヶ月 2名</p> <p>団長 交替 11ヶ月 1名</p> <p>養殖 11ヶ月 1名</p> <p>短期 3ヶ月 権士木 1名</p> <p>、 養殖 1名</p> <p>※ 継続は、任期延長予定</p>	<p>51年度繰越</p> <p>現積 22,300千円</p> <p>明許 7,700千円</p> <p>51年度</p> <p>25,500 千円</p>	<p>一般研修費</p> <p>養殖 3人 6ヶ月</p> <p>高級研修費</p> <p>養殖全般 1ヶ月</p> <p>計 4名</p>
タイ	とうもろこし開発	<p>とうもろこしの増産及び農協関係組合の育成を目的として、次の事業を実施する計画である。</p> <p>① とうもろこしの生産及び農協に関する教育・訓練</p> <p>② 栽培技術・農機機械の指示</p> <p>③ 種子の増産・配付</p> <p>④ 農協人の巡回指導等</p>	<p>当面</p> <p>30年(予定)</p>	<p>団長 1名</p> <p>栽培 1名</p> <p>機械 1名</p> <p>農協 1名</p> <p>計 4名</p> <p>(予定)</p>	<p>農機設計調査</p> <p>51年8月</p> <p>7名×45日</p> <p>(12,895千円)</p>	<p>団長(新規) 3ヶ月 1名</p> <p>栽培() 3ヶ月 1名</p> <p>農機機械() 3ヶ月 1名</p> <p>農協() 3ヶ月 1名</p>	<p>51年度分</p> <p>25,500千円</p>	

国名	プロジェクト名	プロジェクトの概要			昭和51年度進捗計画			
		協力内容	協力期間	専門家派遣数	調査員派遣	専門派遣	機材供与	研修員受入等
マダガスカル	畜産開発	北部ダイエゴ・スアレ州を中心に ① 家畜衛生の改善 ② 飼料作物の開発 ③ 家畜飼養の改善 ④ 技術者の訓練等が協力の対象分野に予定されている。	当面 5/0期間 2カ年(予定)	家畜衛生1名 家畜生産2名 飼料作物1名 業務調整1名 計 5名	実施設計調査 (50年度地下水探査実施) (報告書分 3000千円) 計画打合 3名×15日 51年11月 (4814千円) 巡回指導 4名×25日 (5200千円)	家畜衛生 2名×3カ月 飼料作物 1名×3カ月 計 3名	50年度分 43,000千円	

シリア協力センタープロジェクト

国名	プロジェクト名	プロジェクトの概要			昭和51年度運営計画			
		協力内容	協力期間	専門家派遣数	調査団派遣	専門家派遣	機材供与	研修員受入等
スリランカ	高等水産講習所	<p>高等水産講習所において訓練等に関する次の協力を行う。</p> <p>① 高等学校卒業程度の訓練生に対する漁業技術訓練</p> <p>② 高等学校卒業程度の訓練生に対する漁船の機関技術の訓練</p> <p>なお、この訓練は、日本政府政府が無償協力した75トカツホ一本針練習船を使用して実施されている。</p>	<p>4年間</p> <p>49年4月16日</p> <p>5</p> <p>53年4月15日</p>	<p>(51.4/現在)</p> <p>主席顧問1名</p> <p>航海1名</p> <p>漁具1名</p> <p>漁法1名</p> <p>漁船長1名</p> <p>機関科機関1名</p> <p>業務調整1名</p> <p>計7名</p>	<p>巡回指導51年9月</p> <p>鶏病診断1日×1名</p> <p>水産技術10日×1名</p> <p>業務調整19日×1名</p> <p>経費2,810千円</p> <p>(鶏病と合同)</p>	<p>継続2ヶ月2名</p> <p>機関科機材管1ヶ月1名</p> <p>機関科 6ヶ月1名</p> <p>漁具科 1ヶ月1名</p> <p>漁法科 1ヶ月1名</p> <p>漁船長 3ヶ月1名</p> <p>業務調整 3ヶ月1名</p> <p>④ 継続2名は派遣期間を延長予定</p>	<p>50年度繰越分 28,000千円</p> <p>51年度分 20,000千円</p> <p>計48,000千円</p>	<p>一般研修員 (各6ヶ月)</p> <p>漁業科 2名</p> <p>機関科 2名</p> <p>計4名</p>
	鶏病センター	<p>シリアの養鶏振興に資するため、ダマスカス市に設置の鶏病センターにおいて次の協力をを行う。</p> <p>① 鶏病の診断、予防、防疫、調査</p> <p>② 技術者の訓練</p> <p>③ 普及</p> <p>④ ワクチン製造に対する助言</p>	<p>5年間(5/6)</p> <p>47年11月16日</p> <p>5</p> <p>52年11月15日</p>	<p>団長1名</p> <p>細菌1名</p> <p>ウイルス1名</p> <p>飼養管理1名</p> <p>病理1名</p> <p>計5名</p>	<p>巡回指導</p> <p>51年8月</p> <p>(水産と合同)</p>	<p>ウイルス 13ヶ月1名</p> <p>細菌 13ヶ月1名</p> <p>病理 13ヶ月1名</p> <p>飼養管理 13ヶ月1名</p> <p>予防 11ヶ月1名</p> <p>短期 1月2名</p> <p>3月1名</p> <p>(注) 13カ月のうち1カ月は交替の重複期間を示す。</p>	<p>51年度分 計15,000千円</p> <p>(据付・改修)</p> <p>(蛍光体)</p>	<p>鶏病個別1名</p> <p>養鶏集団2名</p> <p>計3名</p>

国名	プロジェクト名	プロジェクトの概要			昭和51年度運営計画			
		協力内容	協力期間	専門家派遣数	調査員派遣	専門家派遣	機材供与	研修受入等
ペ ル ウ	水産加工センター	ペルーの水産振興するためセンターにて次の協力を行う。 ① 水産物の食用向け新製品の開発と水産加工技術の改善のための研究	4年間(R/D) 50年4月23日 5 54年4月22日	(51.4/現在) 主婦顧問(1名) 冷凍食品(1名) 水産機械(1名) 計 3名	予定なし	継続2月 3名 缶詰新規11月 1名 冷凍機械 " 11月 1名 缶詰 " 11月 1名 化学研究者 " 11月 1名 微生物研究者 " 11月 1名 業務調整 " 11月 1名 計 9名	50年度繰越分 40,000 千円 51年度新規分 40,000千円 計 22,000 千円 80,000	(一般研修) 6月 一般社員 1名 缶詰 1名 化学研究者 1名 微生物研究者 1名 計 4名

Ⅲ. 開発協力技術指導事業計画

1. 民間企業等技術指導

	期間	人員	件数	実施予算予定額			対象プロジェクト
				派遣諸費 千円	飛行機料費 千円	計 千円	
短期技術指導 有償 無償	75日	2人	6件	6,167	0	6,167	短期技術指導は民間企業等からの申請に基づいて実施する。
	75日	2人	2	4,112	0	4,112	
長期技術指導	10ヶ月	2	1	7,000	1,100	8,100	インドネシア、ランポン農業開発に対する派遣を予定する。

2. 受入れ研修

分野	研修員数	期間	備考
農業	5	2ヶ月	インドネシア、マレーシア、フィリピン
林業	10	"	フィリピン、インドネシア、パプアニューギニア
その他	15	"	農協間協力のため・タイ

Ⅱ. 専門家養成確保事業計画

項 目	51 年 度 の 計 画		備 考
	予 算 額	内 容	
(1) 専門家の登録	千円 872	1. 登録予定人員 100名 2. 対象分野 畑作及び林業分野 3. 選考方法 第一次書類選考 第二次面接 4. 登録の決定 選考委員会を設け、本委員会が決定する。 5. 登録事務 登録決定者について、カードを作成して保管する	担当課：農林業計画調査課
(2) 専門家の確保	53,709	農林業開発協力事業に必要な専門家20名の確保を行う。	

項 目	51 年 度 の 計 画				
	予 算 額	内 容			
(3) 専門家の養成 及 長期研修	千円 70,339				
	33,950				
	研修項目	研修国名	研修機関名	研修期間	備 考
	(新規)				
	畑 作	メキシコ	国際トウモロコシ小麦改良センター	51.7.1 ~ 53.6.30	
	"	"	"	"	
	"	アメリカ	ミシガン州立ミシガン大学	"	
	"	"	アリゾナ州立アリゾナ大学	"	
	林 業	"	アメリカ合衆国林野庁熱帯林業研究所	"	
	(継続)				
	農 業 上 木	オランダ	ワゲニンゲン農業大学	50.4.9 ~ 52.4.8	
	畜 産	オーストラリア	オーストラリア連邦科学産業研究機構	"	
	林 業	フランス	熱帯林業技術センター	50.9.15 ~ 52.9.14	
畜 産	オーストラリア	オーストラリア連邦科学産業研究機構	50.10.14 ~ 52.10.13		
畑 作	メキシコ	国際トウモロコシ小麦改良センター	50.10.20 ~ 52.4.19		
"	アメリカ	アリゾナ州立アリゾナ大学	51.1.9 ~ 53.1.8	滞在費農林省負担	
農 業 上 木	"	ネバダ州立ネバダ大学	51.1.9 ~ 53.1.8	"	
林 業	"	アメリカ合衆国林野庁熱帯林業研究所	51.3.16 ~ 53.3.15		
"	西ドイツ	国立連邦林業林産総合研究所	51.3.25 ~ 53.3.24	滞在費農林省負担	

項 目	51 年 度 の 計 画				
	予 算 額	内		各	
イ. 中期研修	千円 28,532	研修名	研修員数	研修期間	備 考
		農林業専門家一般コース (専門分野・農業一般) (土木・林業)	35名	51.5.17 ~ 51.7.28	所属先別内訳 { 国家公務員 15名 地方公共団体等 10名 民間企業 10名
		農林業プロジェクトリーダーコース	15名	51.9.13 ~ 51.11.27	所属先別内訳 { 国家公務員 5名 地方公共団体等 5名 民間企業 5名
ウ. 研修映画の作成	7,857	1. 規 格	カラー 16mm (2巻) 20分 日本語版		
		2. タ イ ト ル	熱帯の林業		
		3. 内 容	熱帯における森林の現状を中心とし、伐採、造林等の特質および南方材の紹介をする。		
		4. 取 材 地	インドネシア、フィリピン、パプアニューギニア		

参考 昭和51年度 農林業関係予算総括表

1. 昭和51年度 農林業関係事業費

(単位：千円)

区 分	全 体		農 林 業 予 算 額		備 考
	予 算 額	通 知 額	予 算 額	通 知 額	
(項) 農 業 協 力 費	2,464,969	2,218,472	2,464,969	2,218,472	通知額は経理部より通知のあった額で予算額の10%減。開発、技術、開発協、開発調査、専門家確保養成の農林業予算額は、社会開発銀行工業開発、総務部と予算配分につき協議済。
1. 調査田収産に必要な経費	2,006,044	1,805,444	2,006,044	1,805,444	調査田28件分
(1) 調査田収産経費	1,931,844	1,738,866	1,931,844	1,738,866	
(2) プロジェクト実施経費	74,200	66,788	74,200	66,788	① プロジェクト調査費 22件
2. 専門家派遣業務に必要な経費	1,122,815	1,010,533	1,122,815	1,010,533	② 基礎調査準備計画費 3件
(1) 専門家派遣経費等	1,029,233	926,309	1,029,233	926,309	① 長期専門家136人 ② 短期専門家33人
(2) 現地業務費	93,582	84,224	93,582	84,224	③ 長期調査員 14人
3. 機械供与業務に必要な経費	1,141,550	1,027,395	1,141,550	1,027,395	① 現地業務費 32ヶ所 ② 現地研究費 39人 ③ 応急対策費 18ヶ所 ④ 長期調査員調査費 7ヶ所 プロジェクト 19件分
(項) 開発技術協力費	586,158	527,544	413,920	372,529	
1. 調査田収産に必要な経費	83,639	75,276	58,808	52,928	
(1) 調査田収産経費	79,559	71,604	56,349	50,715	調査田15件分
(2) プロジェクト実施経費	4,080	3,672	2,459	2,213	① プロジェクト調査費 9件
2. 専門家派遣業務に必要な経費	330,819	297,738	210,612	189,551	② 開発調査準備計画費 6件
(1) 専門家派遣経費等	296,325	266,693	188,110	169,299	
(2) 現地業務費	34,494	31,045	22,502	20,252	① 現地業務費等 9ヶ所
3. 機械供与業務に必要な経費	171,700	154,530	144,500	130,050	② 長期調査員調査費 8ヶ所

(単位:千円)

区 分	全 体		農 林 業 予 算 額		備 考
	予 算 額	通 知 額	予 算 額	通 知 額	
(項) 開 発 調 査 費	4,080,844	3,672,759	449,639	404,675	
1. 調査団派遣に必要な経費	3,473,609	3,126,248	435,869	392,283	農林業開発調査団13件分
2. 所屬先補填経費	36,890	33,201	13,770	12,392	
3. プロジェクト研究費	22,945	20,650	0	0	
4. 実施計画費	391,000	351,900	0	0	
5. 特別案件調査費	156,400	140,760	0	0	
(項) 技術協力センター費	1,498,611	1,348,749			
1. 調査団派遣に必要な経費	43,881	39,492			
(1) 調査団派遣経費	40,532	36,478		(2,810)	シリア、スリランカ、巡回指導分として実行計を提出した金額
(2) プロジェクト実施経費	3,349	3,014			
2. 専門家派遣に必要な経費	811,730	730,557			
(1) 専門家派遣経費等	786,290	707,661		(158,336)	シリア鶏病センター、スリランカ、高等水産研究所、バル産業セ
(2) 現地業務費	25,440	22,896		(4,320)	ンターに必要な経費として実行計画を提出した金額。
3. 機材供与に必要な経費	643,000	578,700			

(単位：千円)

区 分	全 体		農 林 業 予 算 額		備 考
	予 算 額	通 知 額	予 算 額	通 知 額	
(項) 開 発 協 力 費	414,240	372,817	242,461	218,216	
1. 調査田水道に必要な経費	338,843	304,959	167,064	150,358	資料に於て、この数字を使用する。 調査19件分
2. 技術指導に必要な経費	75,397	67,858	75,397	67,858	① 開発基礎一次調査 3件
(1) 長期調査員派遣費	15,623	14,061	15,623	14,061	② “ ” 二次 “ 3件
(2) 短期技術指導	11,420	10,278	11,420	10,278	③ 開発計画調査 3件
(3) 長期技術指導	11,287	10,158	11,287	10,158	④ 計画打合せ 3件
(4) 受入諸費	17,791	16,012	17,791	16,012	⑤ 投融資調査等調査 7件
(5) 現地業務費	1,171	1,054	1,171	1,054	技術指導
(6) 所屬先補費	18,105	16,295	18,105	16,295	① 短期 8件 ② 長期 1件 受入研修 25人分
(項) 専 門 家 養 成 確 保 費	289,483	260,536	124,920	112,428	
1. 募集登録諸費	1,293	1,164	872	785	
2. 専 門 家 確 保 費	23,991	84,592	53,709	48,338	
3. 選考委員会諸費	644	580	0	0	
4. 派遣前研修諸費	57,285	51,557	0	0	
5. 中期研修諸費	60,781	54,703	28,532	25,679	
6. 長期研修諸費	67,632	60,869	33,950	30,555	
7. 研修用映画作成経費	7,857	7,071	7,857	7,071	

昭和50年度農林関係事業費繰越内訳表

(単位:千円,100.0円以下は四捨五入) 51.3.31 農林課

区分	翌 債		明 許							計	備 考	
	金額	備考	金額	内、国庫林費	内、現物林費	内、貸付林費	内、技術費	内、委託試験費	内、国庫林費			備考
✓ (頂) 農業協力費												
1. 調査出張費												
(1) 中南米フロファイ(事前)			540						540		540	/
(2) サウジアラビア乾燥地()			4,962	3,892	560	150			360		4,962	/
(3) タイ、かんがり農林()			5,044	3,795	613	113			523		5,044	/
(4) インドネシアボゴール大()			480						480		480	/
(5) マレーシア水管理()			844						844		844	/
(6) インドネシア南スマタエン(実施費)			8,582	3,843	617	186	3,226	710			8,582	/
(7) フィリピン、カガマン()	9,976	技術費	1,490						1,490		11,466	/
(8) インドネシア南スマタエン()			23,813	8,204	1,652	693	10,441	2,823			23,813	/
(9) ブラジル、農研()			984						984		984	/
(10) インドネシア、ラホソ(巡回)			265						265		265	/
(11) ブラジル、リバイラ()			265						265		265	/
(12) バングラ、農業普及()			265						265		265	/
(13) ネパール、農研()			265						265		265	/
(14) インド、農研(計画検)			1,814	1,432	240				142		1,814	/
(15) 開発実態調査			1,140						1,140		1,140	/
計	9,976		50,753	21,166	3,682	1,142	13,667	11,096			60,729	/

11

区 分	要 債		用 途							計	備 考	
	金 額	備 考	金 額	内. 調査旅費	内. 現地調査費	内. 資料調査費	内. 技術費	内. 報告作成費	内. 国内旅費			備 考
2. 機械供与費												
(1) バングラ・農業普及			85,000								85,000	✓
(2) インドネシア・西部ジャワ	5,143	✓	685								5,828	✓
(3) インドネシア・農研			51,890								51,890	✓
(4) インドネシア・タジム	1,500	✓	8,892								10,392	✓
(5) インドネシア・ランポン	72,026	✓	30,974								103,000	✓
(6) " " 南スラウェシ			10,000								10,000	✓
(7) インド・普及センター			3,024								3,024	✓
(8) インド・ダンカラ	630	✓	500								1,130	✓
(9) インド・農研	53,700		40,000								40,000	✓
(10) 韓国・農研	53,743		6,257								60,000	✓
(11) マレーシア・稲作	4,947	✓	1,873								6,820	✓
(12) ラオス・タゴン(第1次)	4,500	✓	2,000								6,500	✓
(13) " " (第2次)			8,500								8,500	✓
(14) ネパール・農研	85,306	✓	36,694								122,000	✓
(15) フィリピン・稲作	7,946	✓	2,441								10,387	✓
(16) フィリピン・カガマン			10,000								10,000	✓
(17) タイ・養蚕開発	36,200	✓	12,800								49,000	✓
(17) スリランカ・デワフワ			2,500								2,500	✓
(18) イラン・シスタン			10,000								10,000	✓
(19) タンザニア・マリヤンゴ	52,628	✓	15,952								68,600	✓
計	324,546	✓	339,980								664,528	✓
	324,522		370,735								695,257	✓
合 計	334,522		370,735								725,257	✓
	334,525		370,734									

区 分	翌 根		研 究							計	備 考	
	金 額	備 考	金 額	内. 証 値 旅 費	内. 現 地 研 究 費	内. 現 地 研 究 費	内. 技 術 費	内. 報 告 費	内. 報 告 費			備 考
(項) 爾 究 技 術 協 力 費												
1. 調 査 団 派 遣 費												
(1) フィリピン・飼料作物			4,725	3,611	506	30		578			4,725	
(2) インドネシア・養蚕			915					915			915	
(3) タイ・とうもろこし			841					841			841	
(4) ブラジル・一次産品			1,411					1,411			1,411	
(5) フィリピン・パンタバンガン			1,133					1,133			1,133	
(6) タイ・一次産品(巡回)			265					265			265	
(7) タイ・えび()			580					580			580	
(8) マダガスカル畜産(計酬給)			4,814	4,371	114			329			4,814	
計	0		14,684	7,982	620	30		6,052			14,684	
2. 機 材 供 与 費												
(1) インドネシア・ランポン	59,386		10,614								70,000	
(2) タイ・一次産品			10,000								10,000	
(3) タイ・えび	22,300		7,700								30,000	
(4) マダガスカル・畜産			43,000								43,000	
計	81,686	✓	71,314	✓							153,000	✓
合 計	81,686	✓	85,998	✓							167,684	

区 分	要 項		明 許								計	備 考
	金 額	備 考	金 額	内. 調査旅費	内. 現地調査費	内. 現地調査費	内. 技術費	内. 報告書作成費	内. 国内旅費	備 考		
(項) 開発調査費												
(1) ガーナ. 農業開発	18,164	コンサル契約未払分	71						71			18,235
(2) カガマン. 農業開発(実設)	39,119	コンサル契約未払分										39,119
(3) ジョルダン. フディアラブ	97,805	コンサル契約未払分	286						155	131		98,091
(4) フィリピン. 水産資源			756						756			756
(5) ナイジェリア. 農業開発			7,900	5,754	1,515	60			450	121		7,900
合 計	155,088		9,013	5,754	1,515	60			1,432	252		164,101
(項) 海外センター協力費												
1. 機材供与費												
(1) スリランカ 高層水産講習所			28,000	✓								28,000 /
(2) ペルー 水産加工センター			40,000	✓								40,000 /
合 計			68,000									68,000 /

区 分	翌 債		開 許							計	備 考	
	金 額	備 考	金 額	内.調査旅費	内.現地調査費	内.現物調査費	内.技術費	内.報告書作成費	内.図面作成費			備 考
(項) 開発協力費												
1. 調査団派遣費												
(1) 北ベトナム・とうもろこし(一)			6,494	5,064	220	62		648			6,494	/
(2) ブラジル・ベレン林業			624	1			194	368	62		624	/
(3) インドネシア・南スマトラ林業	✓		17,999	1,014	644	11	14,931	1,278	121		17,999	/
(4) インドネシア・中ジャバ林業	✓		775					718	57		775	/
(5) ブラジル・農圃(第2次)	✓		727					727	56		727	/
(6) , (第3次)	✓		25,000	9,088	2,350	524	10,600	2,200	238		25,000	/
(7) タイ・とうもろこし	✓		23,892	7,350	2,126	30	12,572	1,814			23,892	/
(8) フィリピン・パンバガン林業	✓		20,350	5,986	1,797	235	11,040	1,117	175		20,350	/
(9) パプア・ニューギニアマダシ林業	✓		27,822	11,740	1,967	395	12,265	1,105	350		27,822	/
(10) ブラジル・バラグアイ投審	✓		5,011	4,429	582						5,011	/
(11) インドネシア・投審	✓		1,891	1,676	215						1,891	/
(12) タイ・マレーシア投審	✓		1,956	1,720	236						1,956	/
合 計			132,541	48,067	10,637	1,257	61,602	9,975	1,003		132,541	/
			132,539	48,067				9,974	1,002	✓	132,539	

3. 昭和51年度 管理費内訳表

1. 予算通知額は経理部から通知のあったもので、総務部、人事部、経理部が一括管理する。図書購入費、通信運搬費、賃金、備品費、交遊費は除いてある。又、各費目とも当初予算額の10%減

2. 農林業3部分予算額は、社会開発、鉱工業開発と協議済

予算項目	当初予算額	予算通知額 千円	同左農林業3部分 千円	予算項目	当初予算額	予算通知額 千円	同左農林業3部分 千円
製薬協力業務経費	5,649	4,039	4,039	開発技術協力業務経費	2,764	1,470	980
(1) 調査回次運賃				(項) 事務諸費		1,470	980
(目) 事務諸費		674	674	(目) 諸謝金		282	188
(目) 取戻旅費		197	197	(目) 取戻旅費		403	271
(目) 弁 費		477	477	(目) 弁 費		725	121
(節) 会議費		110	110	(節) 会議費		236	154
(*) 資料費		236	236	(節) 印刷製本費		549	367
(2) 実施管理費				開発投融資業務経費	5,168	4,561	2,036
(項) 事務諸費		3,365	3,365	(項) 事務諸費		4,561	2,036
(目) 諸謝金		976	976	(目) 諸謝金		1,568	706
(目) 取戻旅費		762	762	(目) 取戻旅費		283	126
(目) 弁 費				(目) 弁 費		2,604	1,204
(節) 会議費		315	315	(節) 印刷製本費		1,346	608
(*) 資料費		1,089	1,089	(*) 会議費		638	297
				(*) 借料損料		153	63
				(*) 資料費		547	236

予算項目	当初予算額	予算通知額 千円	同左農林業3部分 千円	予算項目	当初予算額	予算通知額 千円	同左農林業3部分 千円
開発協力業務経費	2,170	1,953	631	(目) 取戻旅費		231	21
(1) 調査団派遣経費				(目) 弁費		181	13
(項) 事務諸費		505	206	会議費		40	4
(目) 謝礼金		287	116	資料費		100	9
(目) 取戻旅費		218	90				
(2) 調査関係研究経費				開発調査業務経費	4,494	4,046	350
(項) 事務諸費		1,448	425	(1) 調査団派遣経費			
(目) 謝礼金		114	52	(項) 事務諸費			
(目) 弁費		1,334	373	(目) 謝礼金			
(節) 資料費		892	333	(目) 取戻旅費			
(*) 印刷製本費		122	40	(目) 弁費			
技術協力センター事業経費	3,123	2,712	229	会議費			
(1) 設置管理費				資料費			
(項) 事務諸費		2,237	189				
(目) 謝礼金		731	72				
(目) 取戻旅費		408	36				
(目) 弁費		1,098	81				
資料費		727	72				
会議費		96	9				
(2) 要員派遣管理費							
(項) 事務諸費		475	40				
(目) 謝礼金		63	6				

11

